令和３年９月27日（月曜日）

日本工業経済新聞

【足立敏之議員】応急復旧に地元業者尽力／8月の大雨被災地視察

足立敏之参議院議員（自民党）は、9月上旬から中旬にかけて8月のお盆前後の大雨で被災した長崎県、島根県、青森県内を相次いで視察し、各地で「地域の守り手」である地元建設業者が応急復旧工事等に尽力している姿を確認した。

むつ市で落橋した小赤川橋。３日後には仮橋を架設した（提供：青森県下北地域県民局）

台風9号から変わった温帯低気圧の影響で24時間雨量が既往最大の2倍を超えた青森県の下北半島では、むつ市の国道279号に架かる小赤川橋が大量の土砂と流木に押し流され落橋し、周辺の家屋7棟が全壊した。隣接する風間浦村では、国道沿いの8カ所で大規模な土砂崩れが発生して治山ダムが壊れ、コンクリート塊が海岸まで達するなど大きな被害に見舞われた。落橋した小赤川橋は、国土交通省東北地方整備局が仮橋を3日間という速さで仮設、片側交互通行で孤立解消を実現した。足立議員は、むつ市の宮下宗一郎市長から仮橋を「しもきた国土交通3日橋」と命名したことや、現場の応急復旧を担当した地元建設業者から当時の様子や苦労を聞いた。

足立議員は「台風が進むコースが従来の常識から外れ、これまでに経験したことのない地域で大雨が降った。特に土砂災害で深刻な被害が出た」とし、さらなる防災対策の必要性を強調した。

長崎県では、雲仙市小地獄地区の土石流現場や宮摺町の県道通行止めの現場を視察し、地元業者が被災直後から24時間体制で応急復旧に当たっていることに感謝した。

島根県では、2018年以降、4年間で3回目の浸水被害となった江の川を訪れ、本川付近や支川の高台で計画される防災集団移転地の整備状況などを確認。流域治水に先駆けて、水防災事業により宅地のかさ上げや高台移転を進めていることを評価し、再度災害防止の効果に期待を寄せた。